



Mitutoyo

MEASURE

産業のマザーテクノロジーと呼ばれ、世界中のあらゆる製造シーンで必要とされ続けている、精密測定。

現代においては“インダストリー4.0”に象徴される目覚ましい技術革新の波の中で、

工場や製造業そのものの在り方はますます高度化し、精密測定に期待される役割も高まりを見せる一方です。

1934年に創業したミットヨは、「精密測定で社会に貢献する」を理念としながら、

世界に市場を拡げ、精密測定機器の総合メーカーとしての歩みを重ねてきました。

けれども、私たちが挑戦するのは「測る」だけでは終わらない、お客様にとっての「その先」を創り出すソリューションです。

最適な検査環境の開発、自社技術を応用した現場の工程改善、測定データの活用による「止まらない工場」の実現まで。

製造の根幹に携わる存在だからこそ、可能性の広がりは無限です。

「測る」のその先へ。

ミットヨの新しい挑戦が始まっています。



and...

「測る」を変えることで、 「作る」を変えていく。

スマートファクトリーの実現支援

M³ Innovation

従来、精密測定は、製造ラインとは隔てられた検査室の中で行うものでした。一方、これからのミットヨが思い描くのは、“作る”と“測る”が一体となることで、自律的・持続的に動き続ける「止まらない工場」の姿です。Measure【測定の効率化】、M2M【仕様や規格を超えたネットワーク構築】、Manage【測定データの分析・活用】という“3つのM”をコンセプトに、世界の製造シーンに新しい変化を起こしていきます。

Measure

測定からスマートファクトリー化を支援

もっとラインの近くで。マシンのすぐそばで。ミットヨは、「測定は検査室で」という従来の常識に挑み、生産ラインの流れを止めることなく検査できる精密測定をご提案しています。加工から検査までの工程が完全に自動化された環境も実現可能に。スマートファクトリー時代の新しい測定のカタチです。





M2M/Machine to Machine

ボーダーを超えたプラットフォームの実現

機器同士がネットワークを通じて連携し、高度な処理や制御にあたるM2M (Machine to Machine) の概念。ミットヨは、仕様や通信規格のボーダーを超え、多様な機器と測定機をシームレスに結ぶネットワーク構築を進めています。測定データを横断的に活用できる、お客様中心のプラットフォームを実現します。



Manage

測定データを“次の一手”へ

何か問題が起こってからの対処ではなく、常に問題が無い状態を維持し続ける。そうした「一歩先の管理」のため、機器の状態をオンラインで監視できるシステム (SMS) や測定データを統計的に解析するシステム (MeasurLink) を提供。「測定」のみならず「製造」に関する問題解決に貢献します。



SMS

Mitutoyo

MiSTAR 555

そのクオリティを、
世界の工場が待っている。

精密測定を最先端で探求

1nmの技術力

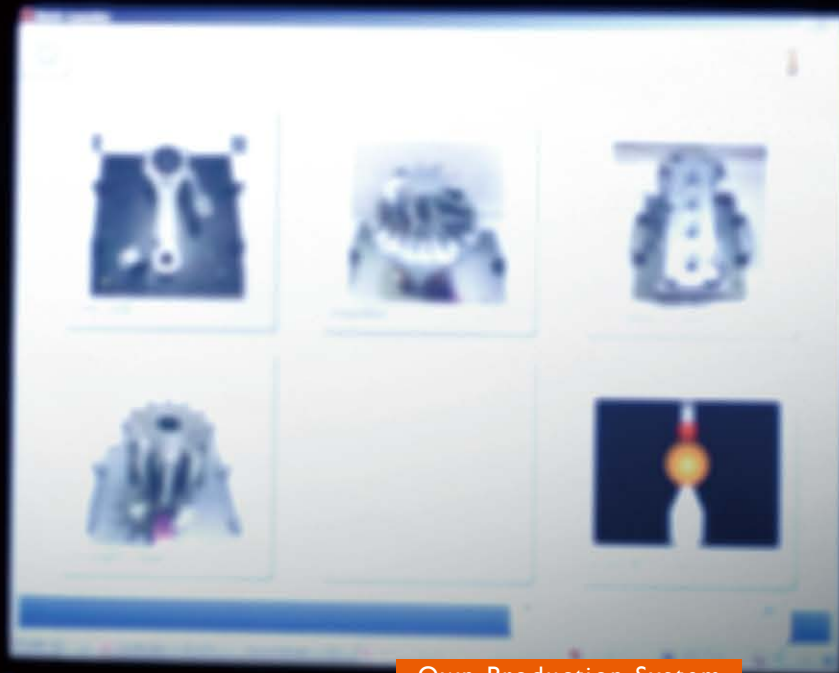
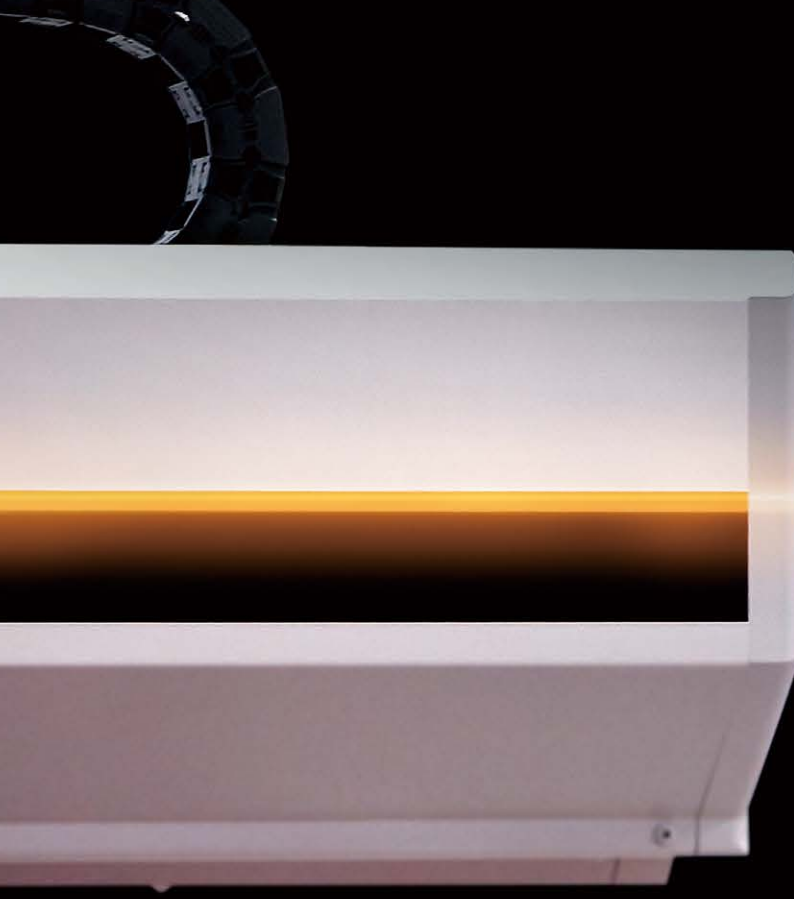
「測定機器の精度以上に、精度の高いものは作れない」。精密測定が“産業のマザーテクノロジー”と呼ばれる所以です。いうまでもなく、測定精度はもの作りの生命線であり、1nm（ナノメートル）の精度を提供できるミットヨの技術力は、ますます高度化する現代の産業技術の最先端を担っているともいえます。精密測定の世界のリーディングカンパニーとして、ミットヨは今もなお進化を続けています。

Global Leading Company

精密測定のリーディングカンパニー

精密測定機器の総合メーカーとして、お陰様でミットヨの名は世界に広く知られています。事実、ミットヨ商品は国内・海外とも有数のシェアを誇り、業種や国境を越えて数多くの現場で選ばれ続けています。世界の名だたる企業も認めるその信頼性。ミットヨ品質は世界品質です。





Thousands of Lineup

5500種類以上に及ぶ商品数

ミットヨの強みは、製造シーンの多様なニーズに応えるべく、きわめて多岐にわたる商品を展開していること。ノギス、マイクロメータ、ダイヤルゲージ、形状測定機、硬さ試験機、光学機器、画像測定機、座標計測機器など、その数は5500種類以上。「測る」ニーズの数だけ、ミットヨ商品が存在しているといっても過言ではありません。



Own Production System

キーテクノロジーは自社で持つ

お客様からの信頼に応える商品を生み出すため、「キーテクノロジーは自社で持つ」という方針のもと、機械、電気電子、ソフトウェア、光学等、幅広く高度な技術を自社開発・保有しています。自社一貫体制だからこそ可能な、ポリシーの徹底した商品提供は、ミットヨに息づく不変のDNAです。



使い続けてもらうことが ミットヨの使命。

サポートもまたミットヨブランド

独自のサービス体制

お客様の現場とミットヨの関係は、販売したら終わりではなくそこがスタートです。すべてのお客様がミットヨ商品を本来の性能でご使用いただけるよう、総合メーカーならではの高品質なサービスをご提供しています。セットアップからソフトウェア講習、検査・校正、精度調整、保守メンテナンス、修理といった種々のサービスを、国内・海外ともに充実の体制でご提供いたします。

Calibration & Traceability

トレーサビリティ体系を活かした 信頼性の高い校正サービス

国家標準と同等レベルの光周波数コム装置を保有するミットヨでは、それを頂点とするトレーサビリティ体系を活かした信頼性の高い校正サービスを提供しています(JCSS認定取得)。海外の現地法人においても校正部門を持ち、それぞれ国際規格ISO/IEC 17025に基づく認定を取得しています。





Customer Support

ミットヨ・カスタマーサポートセンタ

ミットヨのサービス拠点として世界各国に展開しています。商品についてのご質問やご相談に、専門のスタッフが応えするとともに、カスタマーエンジニアによる修理が必要となる故障等の場合は、サービス拠点への派遣要請を行います。必要なときに必要なサポートをお客様の現場へお届けします。



Mitutoyo Institute of Metrology

ミットヨ計測学院

1975年に設立した「計測技術者の養成と技術向上」を目的とする教育機関です。測定実習を主体としたカリキュラムで、ものづくりの現場における精密測定の基本・実践・応用を網羅する内容となっています。世界の主要拠点に開設され、毎年数多くのお客様に受講いただいております。



衣・食・住、家庭から宇宙まで、 ミットヨの「測る」が支えています。

パソコンや家電製品、クルマ、文房具、携帯電話など、身の回りのあらゆるモノと深く結びついている「測る」技術。ミットヨの製品は、現代の高度化した産業を根幹から支え、人々が生活する社会の中で広く役立っています。

長さを測る



あらゆる製品の長さを正確に測る マイクロメータ・ノギス

あらゆる産業の現場で使われている測定工具です。長さの測定にはその形状と精度に応じ測定機器を使用しますが、5/100～1/10,000mmを測ることができます。マイクロメータは、創業期のミットヨが国産化に初めて成功した、原点ともいべき商品です。

かたちを測る



ものの形状や表面の粗さ等を測る 輪郭形状測定機・表面粗さ測定機

金型、ねじ、レンズなどの微細な形状を高精度に測定する輪郭形状測定機の代名詞として使われるコントレーサはミットヨが開発しました。また、ものの表面の粗さを測定する「表面粗さ測定機」も多様な現場で活躍しています。

座標を測る



複雑な立体物の座標値を検出する 三次元測定機

XYZの座標で形状を捉える「三次元測定機」は、航空機のジェットエンジンのブレード、自動車のボディ、ロケットや人工衛星などの部品にも使われる精密測定技術の結晶です。複雑な構造物も精密に計測します。

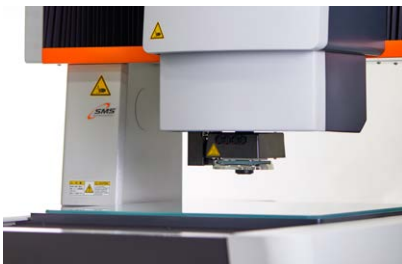
技術をソリューションとして提供する

ミットヨは、測定機器＝商品の提供ばかりでなく、「お客様が必要とされるものは何でも提案する」という考え方でビジネスを展開しています。例えば、測定機の技術から派生させたセンシング領域や、現場のプログラム作業を支援するソフトウェアソリューションもそれらの一つです。長年培ってきた自社技術を様々な応用することで、新たなソリューションを提供します。





映して測る



非接触で効率的に画像解析する 画像測定機

画像処理によって測定物のエッジを検出することで非接触で高速に寸法を測定。ゴムや樹脂のような、やわらかくて触れると変形してしまう部品や、電子基板のような微細形状の測定に適しています。

微細を測る



顕微鏡など光学特性を利用した精密測定 光学機器

ガラス基板、液晶カラーフィルタなど、ナノレベル (1nm=1/1,000,000mm) の微細な領域の計測に光学技術は欠かせません。ミットヨは光学機器の目ともいえるレンズを自社で開発。顕微鏡、画像測定機などにも搭載しています。

状態を測る



硬さなど各種状態を測る 材料試験機

材料の硬さを数値化する「硬さ試験機」など、多様なニーズに応じた材料試験機を扱っています。日々変化する現場で、安定した品質管理に貢献します。

進化するミットヨデザイン

測定精度をはじめとする性能はもちろんのこと、製品デザインもまた企業の重要戦略と位置づけ、全社を挙げて取り組んでいます。視覚的な美しさと機能的な合理性を追求し、ミットヨのブランド・アイデンティティを体現させたデザインは、現場のどの場所からでも一目で存在を認知でき、「製造現場における精度の証」としても機能します。「現場とともに進化するミットヨ」の象徴です。



ミットヨのものづくりを支える“生命線”

世界トップレベルの研究開発施設と、先進的な生産設備を集積させた自社工場、そして確かな知識と経験をもつ技術者たちによって、ミットヨの技術力は支えられています。

川崎工場



ミットヨ本社に併設された川崎工場は、1940年に設立された歴史ある生産拠点であり、画像測定機、対物レンズ・光学機器、レーザスキャンマイクロメータ、精密センサなど数多くの製品を生産しています。また、同敷地内には開発拠点もあり、新製品のパイロット工場としての役割も有しています。



宇都宮地区 測器工場 / MC工場 / 清原工場



宇都宮市で1944年に操業を開始し、下栗地区(10万㎡)で測器工場(ノギス、ハイトゲージ)、MC工場(三次元測定機、大形画像測定機)が稼働しています。2020年には『M³ Solution Center UTSUNOMIYA & Calibration Lab』を新たに併設し、ものづくり現場との連携によるソリューション提案拠点となっています。また、11km離れた清原工業団地の一角(3.4万㎡)で1982年から清原工場(リニヤスケール、電装モジュール)が重要部品工場として稼働しています。



広島地区 呉工場 / 志和工場



創業者生家に隣接して1947年に広島研究所を設立。現在は志和工場となり、マイクロメーター貫生産工場として稼働しています。また呉市広には形状測定機・光学機器などを生産する呉工場があります。呉市郷原には素材加工のセラミックスや精密鑄造部門、大型機械加工部門を有しています。

中津川工場



ダイヤルゲージ、テストインジケータ、デジマチックインジケータ等のインジケータ類の専門工場として、岐阜県中津川市で1997年より操業開始。自動車や工作機械の生産が盛んな中部地区で、「お客様に近い」という利点を活かし、高性能かつ高品質な測定機器を生産しています。

高知工場



2022年11月に高知県香南市で操業を開始した高知工場は、主に半導体業界やEV、電子部品業界など今後益々成長が期待される分野において、微細な位置決めや送り機構部品として使用されるマイクロメータヘッドを生産しています。

宮崎工場



ゲージブロック等基準器の専門工場として、宮崎市田野町で1985年より操業開始。ゲージブロックに要求されるナノメートルの精度を実現するため、地下精密測定室に自社製光波干渉計を設置。世界トップレベルの品質を誇る工場です。

研究開発本部



ミットヨでは、ワールドワイドな協力体制の下、各開発拠点の高度な専門性を駆使してお客様の問題解決に貢献する先端技術開発と新商品開発を行っています。国内では3か所(川崎・札幌・宮崎)で展開しています。



世界の各地域に応じた“グローバル”な展開

早くから世界のマーケットを舞台に事業を発展させてきたミットヨ。
グループとしてグローバルな連携体制を確立するとともに、
各国の地域特性にシナやかに対応する“グローバル”経営の強化を図り、
世界中のお客様へ、いつも最適なソリューションをご提供しています。



本社



MC 工場



測器工場



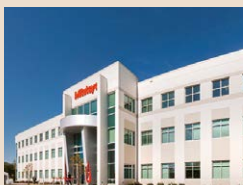
清原工場



中津川工場



宮崎工場



Mitutoyo America Corporation



Mitutoyo Europe GmbH



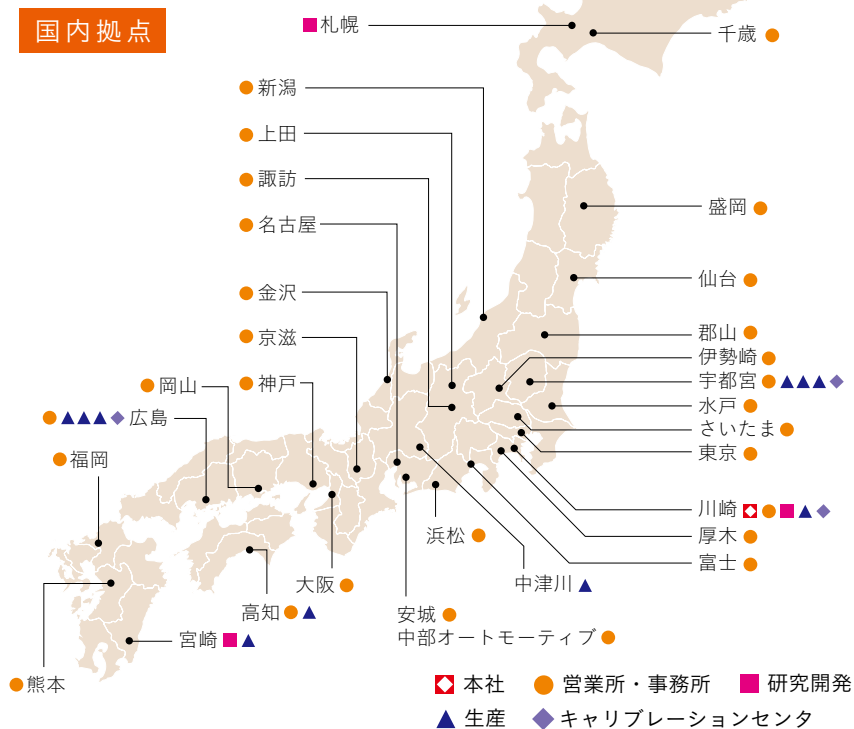
Mitutoyo Asia Pacific Pte. Ltd.



Mitutoyo South Asia Pvt. Ltd.

- ◆ 販売
- 研究開発
- ▲ 生産

国内拠点



2026年5月現在



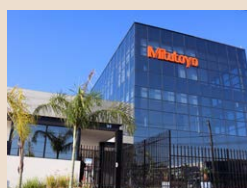
呉工場



志和工場



高知工場



Mitutoyo Sul Americana Ltda.



Mitutoyo Measuring Instruments
(Shanghai) Co., Ltd.

問題解決の最適策を実演・提案

M³ Solution Center

当社ソリューションを実演・提案する「M³ Solution Center」を全世界に展開。商品展示や専任エンジニアによる実演・実技指導のほか、システム導入にあたってのご相談を承っています。



志を受け継ぎ、世紀を超えて

1934年に小さな研究所からスタートし、
世界にその名を知られるグローバルカンパニーへと飛躍を遂げたミットヨ。
すべては、「事業を通じて世の中の平和と人々の幸福に貢献したい」という
創業者 沼田恵範のひたむきな情熱から始まりました。
その志は、変化する時代の中で今も変わらず受け継がれています。

1934- 三豊製作所の誕生へ

マイクロメータの国産化を目指して

1934年、東京蒲田で創業者沼田恵範が当時ほぼ100%輸入に頼っていたマイクロメータの国産化を目指したのがミットヨの歴史の始まりです。1936年には社名を「三豊製作所」へ。やがて研究の成果も現れ、ようやく販売用の最初の量産ロット100個が完成しました。このとき、良品の中から完全無欠な17個だけを残し、残りの83個は従業員一同で工場敷地に埋めたのです。これは、検査を甘くして品質・性能に妥協はしないという決意の証で、全員の心を引き締めるものでした。



創業当時の蒲田工場の模型（沼田記念館）



溝の口工場（現本社）操業開始（1940年）

1954- 世界への進出

輸出のはじまりから海外法人設立まで

ミットヨは創業当初から世界を目指していました。1954年にアメリカで開かれた第1回国際計量器会議と展示会に、沼田恵範は日本代表として参加。精密測定機器の世界的な動向や自社の位置づけを確認する絶好の機会となりました。この経験がその後の輸出の足掛かりとなり、1963年には初の海外拠点をアメリカに設立します。続いて1968年にはドイツに販売会社を設立。以来、南米、ヨーロッパやアジアなど、世界各国にネットワークを拡大していきました。



海外の新聞で紹介される創業者 沼田恵範（1954年）



米国市場への拠点進出（1963年）



1987-

三豊からミットヨへ

デジタル化で業界をリード

1970年代後半より、世界の測定機器業界では測定工具のデジタル化が大きな潮流となっていました。いかに小型に、そして低コストでデジタル化を実現するか。メーカー間で熾烈な技術競争が始まる中、1978年、デジタル測定工具「デジマチックシリーズ」を発売すると、国内外の市場を席巻するヒット商品に。以降もラインナップ強化や改良を重ね、デジタル化で業界をリードしていきました。そして創業50年余りを経た1987年、「株式会社ミットヨ」と社名を改め、21世紀に向け新たな一歩を踏み出します。



世界初のCNC表面粗さ測定機および輪郭形状測定機シリーズ発売(2003年)



世界初 最小表示量0.1 μmのマイクロメータMDH-25M生産開始(2011年)

2026-

新たな地平に向かって

製造現場を支えるソリューション企業として

創業90周年を経て、ミットヨは今、さらなる成長と変革に向けた新たなステージに立っています。製造業を取り巻く環境が激しく変化する中、精密技術とデジタルイノベーションを融合させた「次世代の計測ソリューション」の創出を加速させています。ミットヨは単に測定機を提供するメーカーに留まらず、グローバルな連携をより強固にし、世界中のお客様が直面する課題に対して、迅速かつ柔軟に応えるパートナーでありたいと考えています。AIやIoTを駆使した高度な技術提案から、環境負荷の低減まで。まだ見ぬニーズを形にし、製造現場の未来を切り拓く挑戦を続けていきます。



計測省力化パッケージ MiSTAR Robot System



スマートビジョンシステム QM-Fit

持続可能な社会の実現を目指して

コミットメント

ミットヨは、地球規模での気候変動問題に対して企業としての責任を果たすべく、2050年のカーボンニュートラルに向けて脱炭素社会の実現に貢献していきます。

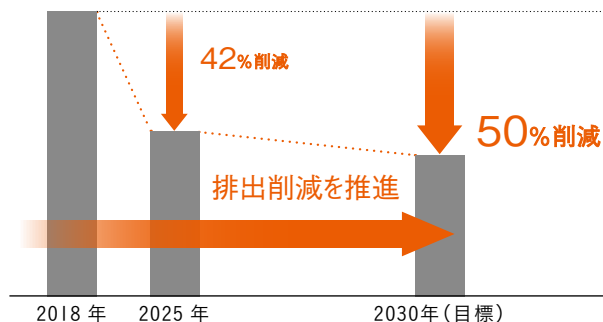
2030年までに自社のCO₂排出量(Scope1,2)を2018年比で50%削減します。

2022年9月にTCFD[※]提言への賛同を表明しました。



※気候関連財務情報開示タスクフォース
(Task Force on Climate-related Financial Disclosures)

自社のCO₂排出量の削減活動



サステナブルなものづくり① 再生エネルギーの活用

宇都宮地区(測器工場/MC工場/清原工場の3工場)と高知工場は水力発電100%のCO₂フリー電力を使用しています。



サステナブルなものづくり② 省エネかつ生産効率の高い設備導入

国内外の事業所で、自家消費型太陽光発電システムを導入しています。また、宇都宮地区MC工場内の温水ボイラーの更新により油の削減とエネルギー効率の向上を実現しました。



この他の具体的な取り組みについてはミットヨ企業サイトでご紹介しています。
カーボンニュートラル実現に向けた取り組み

一つの理念のもとに

精密測定機器メーカーという枠にとどまることなく、様々な社会的活動を展開しています。

測定機器のルーツと変遷を展示 ミットヨ測定博物館

精密測定機器の進化の歴史を展示する専門博物館です。収蔵物は経済産業省より「近代化産業遺産群」として認定されています。ミットヨの歩みのほか、広く世界から集めた計測機器の歴史的資料や製品を展示しています。



人類の平和と幸福のために 公益財団法人 仏教伝道協会

創業者沼田恵範の発願により1965年に設立。「仏教聖典」の編集、刊行とその普及を事業の柱として、仏教が持つ東洋の叡智を一人でも多くの世界の人びとに伝えるための活動や事業を展開しています。



地域社会への貢献 川崎ブレイブサンダースとの活動を通じた 地域の子供たちへのスポーツ体験支援

川崎市をホームタウンとするプロバスケットボールクラブ「川崎ブレイブサンダース」とグローバルトップパートナー契約を結び、地域の子供たちへのスポーツ体験の支援などを行っています。

研究開発の助成と国際協力の推進 公益財団法人 三豊科学技術振興協会

日本が科学技術を通して世界の平和と安全および産業経済の発展に寄与できるよう、優れた研究開発の助成ならびに研究者相互の国際協力の推進のために設立。ミットヨは、財団の活動を継続的に支援しています。



食を通して社会に貢献する ミットヨフーズ

株式会社ミットヨフーズは、創業者沼田恵範が1986年に創業。不殺生による食品産業への構想と、仏教精神を「食」の面からも伝えたいという創業者の遺志を受け継ぎ、現在は「ゆば」の生産を通じて理念の実現に向け精進しています。



©KBT 撮影日:2021/7/29

Mitutoyo 人財育成方針

ミットヨは、世の中、お客様のために
「こうしたい」を大切にします。



一人ひとりの
「こうしたい」が
世界を変える。

新しいものが生まれるとき。いい変化が起きるとき。
「こうしたい」という意思ある人が、いつも真ん中にいます。

「問題発見」から「課題解決」して「自りつ」しながら、
「こうしたい」を「やりきる」人が、ミットヨ人のありたい姿です。

「こうしなさい」といわれる前に、「こうしたい」で動いた方が、
仕事も人生も、ずっと面白い。

世の中、お客様のため。仲間のため、自分のため。

「こうしたい」を、まず口に出すところから
いっしょにはじめていきましょう。



部署や年齢の垣根を超えた活動

「こうしたい」が育つ環境づくり

ミットヨでは、社員一人ひとりの「こうしたい」という想いを大切にしています。それを実現するための人財要件、「問題発見から課題解決まで、誰もが自りつて最後までやりきる力」を養い、実践する後押しするプログラムが、新人向け(“STEPプログラム”)やリーダー向け(“RENGE”・“敢闘HUB”)、をはじめとして、各階層ごとに用意されており、社員の「こうしたい」が育つ環境づくりをしています。



人財が育つ環境づくり

学びと実践を通じて成長実感を高める

「ものを作る前に、人をつくる」という創業時からの考え方は、現在もミットヨに根付いています。人財こそが会社の未来を創っていく可能性の源泉と考え、一人ひとりの成長ステージに合わせた階層別研修や、実務経験を通じた成長を後押しする「キャリアチャレ！」や「Echo」など各種仕組みを整えています。





匠の心と技を伝承する仕組み TAKUMI 制度

自社の競争優位性を支える人財を「TAKUMI」として認定するTAKUMI制度を運用しています。TAKUMIが有する高度な専門性（技術、技能、IT等）の革新と、その知見の継承を目的としています。制度開始当初は、製品の性能を支える製品開発・製造領域を中心に運用していました。現在は、ミットヨが提供するソリューション全体を視野に対象領域を拡大し、市場に高い価値を継続して提供できる体制づくりを進めています。



心身ともに健康でいきいきと働くためのアプローチ 健康経営

社員の心身の健康を重視し、ミットヨ健康経営宣言を策定しています。健康指導、健康相談、ストレスチェック集団分析結果による職場改善活動、健康に関する講演や健康推進セミナーによる食育等、健康への様々な活動を実施し各種認証を取得しています。



経営理念

会社の存在意義、会社経営の基本目的

精密測定で社会に貢献する

【経営理念の6つの指針】

- 1つ、精密測定に関する課題解決を通じて、お客様の事業発展に貢献する
- 1つ、精密測定技術の練磨・革新を通じて、世界の産業の発展、社会課題の解決に貢献する
- 1つ、企業活動に関わりのある全てのステークホルダーとの共存共栄を図り、価値協創に貢献する
- 1つ、世界の平和、人類の幸福、持続可能な地球環境に貢献する
- 1つ、誠実で責任ある企業活動を行い、社会の信頼に応える
- 1つ、人権を尊重する企業活動を実践し、働きがいのある“生き生きとした”企業風土を築き上げる

社是・社訓

経営理念を実現するための会社運営基本方針

経営理念を実践するための行動指針

【社是】

「良い環境」「良い人間」「良い技術」

【社訓】

「誠実」「深慮」「敢闘」

経営理念の6つの指針と対応するSDGs

SDGsの各目標

ミットヨの主な取り組み



3. 3.
すべての人に
健康と福祉を

- ・健康経営の推進
- ・川崎ブレイブサンダースとの活動を通じた地域の子供たちへのスポーツ体験支援



8. 8.
働きがいも
経済成長も

- ・会社の発展に見合う積極的な雇用の創出
- ・すべての人がイキイキと働ける環境づくり



9. 9.
産業と技術革新の
基盤をつくろう

- ・IoTやAIの技術応用追求
- ・高度な技術により生みだされる精密測定機器で世界中のものづくりに貢献
- ・公益財団法人 三豊科学技術振興協会への支援（次世代を担う技術育成支援）
- ・グローバルなミットヨ計測学院の展開による技術者育成支援
- ・技能五輪国際大会の支援（次世代を担う技術者の育成支援）



12. 12.
つくる責任・
つかう責任

- ・国家標準レベルの標準器による品質の担保
- ・顧客の生産現場における品質向上支援



13. 13.
気候変動に
具体的な対策を

- ・省エネルギー、廃棄物削減への取り組み
- ・環境配慮型製品の開発



16. 16.
平和と公正を
すべての人に

- ・安全保障貿易管理に対する取り組み「ミットヨ輸出管理プログラム」
- ・公益財団法人 仏教伝道協会への支援（世界中へ仏教聖典の配布など）



信頼のブランドであり続けるために。

当社は創業以来、精密測定技術を通じて産業界の発展とともに歩み続けてまいりました。

「正確に測ること」「確かな品質を守ること」。この一つひとつの積み重ねが、今日のミットヨを支える礎となっています。

長い歴史の中で培ってきた技術力と、品質への揺るぎない信頼は、

多くのお客様やお取引先の皆さまに支えられながら築き上げてきた、当社の大切な基盤です。

私たちは、ものづくりに対する情熱(パッション)を胸に、常に挑戦する姿勢を大切にしています。

技術革新が加速する現代において、ものづくりの現場や社会が直面する課題は、より高度かつ複雑になっていますが、ミットヨは最新技術への果敢な挑戦を通じて、これらの課題解決に取り組んでまいります。

ミットヨは、単に「測る」ことにとどまらず、課題の本質を見極め、解決まで見据えた価値の提供を目指して進化を続けます。

「精密測定で社会に貢献する」という理念のもと、測定技術・データ・知見を掛け合わせ、

お客様一人ひとりの課題に寄り添い、未来につながる最適なソリューションを提案してまいります。

これからのミットヨは、お客様の期待を超える価値を創出し、ともに考え、

ともに歩むパートナーとして、次世代のものづくりと社会を支えていきたいと考えています。

今後とも変わらぬご支援とご期待を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長

佐々木 繁幸

ミットヨグループ概要

※2025年度概要

(2025年12月31日終了会計年度)

※従業員数：2026年3月末現在

株式会社ミットヨ

本社	神奈川県川崎市高津区坂戸1-20-1 〒213-8533
創立	1934年(昭和9年)10月22日
資本金	391百万円
自己資本	単独175,419百万円(自己資本比率83.2%) 連結260,991百万円(自己資本比率82.6%)
単独売上高	92,500百万円
連結売上高	155,152百万円 (連結対象 日本6社 欧州18社 アジア12社 北米・中南米7社 計43社)
従業員数	単独 3,268名 / 連結 5,862名
代表者	代表取締役社長 佐々木 繁幸
事業内容	精密測定機器の製造・販売

ISO14001 認証取得

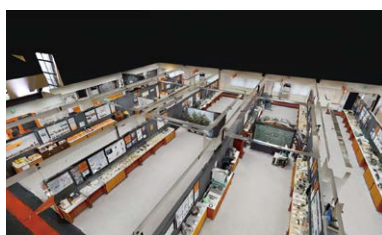
健康経営優良法人(大規模法人部門)認定取得



Mitutoyo

これからの工場は「測る」でつながる。
ミットヨの測定技術が世界を繋ぐ。

ミットヨカンパニーサイト
<https://www.mitutoyo.co.jp>

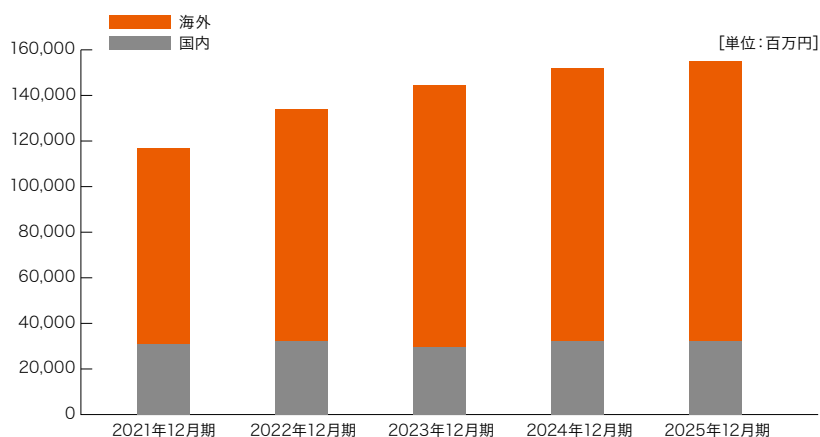


360° バーチャル見学
ミットヨ測定博物館



精密測定で社会に貢献する
ミットヨコンセプト動画

連結売上高



従業員数(単独・連結)

